

「メディア部とは！」

今まで様々な部活紹介を行ってきましたが、肝心の我がメディア部のものが無いという事で、今回はまずこちらから。最近目安箱にあまり応募がありません…。皆様どしどし応募をください！

①メディア部ってどんな部活なのか？

Hi: じゃあとりあえずメディア部を一言で表してみよう!!
 Y: ではまずHくんからね
 Hi: えっ・・・
 Ho: やっぱ言いだしっぺからでしょ～
 Hi: でこぼん・・・
 Ho: でこぼん・・・?
 Hi: 見た目は悪いけど中身の味はいいって言うあたりが
 A: なるほど
 Hi: でこぼんっておいしいんだよ!!
 Ho: ではデコポンのおいしさについて後で語ろうか
 Ni: では他の人
 Ho: デコポンに対抗できるものがない・・・
 Hi: これって別にフルーツ絞りにしているわけじゃないんだよね?
 Ho: じゃあ話題変えよっか!



②部活に所属するメリットについて

S: 1年生で部活に入るメリットについて話そうか
 Ni: 例えばメディア部に入ると・・・?
 A: 飲み会ができる
 Y: 自分のペースに合わせてゆる～く活動ができる
 Ho: 上の学年が多いから2～6年生まで幅広いアドバイスが受けられるよ
 S: 結構な部活でそうじゃない?
 Hi: ちなみにおれはどしどしアドバイスするよ
 Ho: どの部活にしろ色々な情報は手に入りやすくなるよね
 Hi: とところでYさんシャワー借りていいですか?
 A: は・・・?
 Hi: タオル持ってきてるから
 Y: ...



Hi: とりあえずこれって別に具体的にいてないから、やっぱり具体的に言わないと?
 ? : ぐびろヶ丘新聞の発行時期が2.6.9月、それに間に合うように活動してるっていう感じかな
 Y: あれ先輩ってイニシャル・・・
 ? : Sだよ

A: 忘れてたのか!
 Ho: とりあえずそれは置いておいて・・・、やってる場所とか入れる?
 Ni: いらんないんじゃない?
 Ho: 内容としては・・・
 Ni: 飲み会とか!
 Hi: いやいやもと健全な部活ですよ
 Ho: Hiとかネクタイとか頭に巻かない?
 Ho: 内容は今この場でこのように行われている対談
 A: 雑談じゃん
 Hi: まあそれ以外にも色々やってるよね
 S: 部活紹介、記事集め・・・イベントの記録とかのせたりね
 Hi: 水泳部の部活紹介とかやりました
 Ho: 試合の結果をまとめたりとか
 A: 色々やってるよね
 Ho: 新しいコーナーを作り続けここまで増えました!!
 Hi: とりあえず訴訟のリスクはないことはないってことやな!
 Ho: 部員については?
 Ni: 全員兼部で、運動部から文化系まであちらこちらからきてるよね
 Ni: 文武両道ってことだね
 Hi: 4つ兼部している人もいるよね
 Y: とところで部員って何人いるん?
 Ni: 10人以上はいるよね?
 S: そんなにいたのか・・・
 Ho: 一応ね、全員そろったことはないかもしれないけど、この場だけで6人いるしね
 A: とりあえずうちの部活に関してはこんな感じでいいか
 Y: では話題移ろうか
 Ho: そうだね、今度具体的に話題を出して対談をやってみよう



③花見について

Ho: 丁度季節だし、花見について話そうか
 Hi: やっぱり風情のあるものについて話さないかね、花を愛でるって良いよね
 A: とところで花見行ってきた人
 Y: 行ってきたよ
 Ni: 俺も
 Ho: 同じく
 S: 行きました
 Hi: もちろん
 Ho: はいこれにて花見については終了

Ho: じゃあ花見ついでに、メディア部の年間予定を言っていこう
 Hi: 4月が良順会館の前で花見
 A: 5月はOBの先生と一緒に食事
 Ni: 6月は五島・・・
 Y: 五島に何しに行くの?
 Ni: 施設見学とか・・・
 S: 7月は勉強会w
 Ho: 8月は西医の時期に遠征、今年は岡山。
 Y: 試合結果を集めるために学務までw
 A: ハワイに行ったひともいるよ
 Y: ちなみに全部自由参加ですw
 S: 9月は月見
 Ni: 10月運動会
 S: 11月紅葉狩り、したいよね!
 S: 12月・・・
 Ho: それまで何してたの・・・?
 Ni: 色々さ

Ni: 1月追いコン
 A: 去年やってね～
 Y: 追い出してないよね
 Hi: だから残ってるんだよ
 S: 2月進級に向けての勉強会
 Hi: 3月進級祝い
 Ho: と、盛りだくさんのイベントが1年通してあります
 その間にも飲み会、弓道、水泳、写真、茶道、麻雀、カステラなどなど、イベント盛りだくさんですw
 Y: これって大半妄想だよな...



④編集後記を書かない人々から一言

Ho: では編集後記を書かない人に一言ずつもらっていこうか
 Ni君から順にどうぞ
 Ni: 何を言っているか分からないと思うが、名前も履修番号も教えていないのに、なぜか入っていた・・・
 いつの間にかメーリス回ってくるし
 Hi: ごめん一旦帰るから
 (バタバタ・・・、ガラン、バタン)
 S: 彼が帰ってくるまでに終わらせようか!
 S: みんな身内のように接することができます
 この部活に入ったことで新たな人との出会いが・・・
 A: 相当な年数いるはずなのにまだ何もわかっていないw
 気づけば妖精さんがやってくる
 Ho: 以上、部員からの一言でした!
 Y: あれっ、Hiは...?



ぐびろが丘



編集長
本田 徳鷹 (医学部メディア部)

編集部
長崎大学医学部ぐびろが丘編集部
長崎医学同窓会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
☎095-848-5484
E-mail: ryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jp

印刷
日本紙工印刷株式会社

メディア部では様々な「学生の声」を募集中です。学生生活で日々思っていること、「ぶちまけて」みませんか? またインタビューや座談へ参加してみたいなどの要望も随時受け付けております! ぜひ医育支援センター前の目安箱に投函、もしくは ryojun-do@med.nagasaki-u.ac.jp またメールお願うまね!

海外リサーチ

ドイツ 4年 笹村明香里



私は、3年次リサーチプログラムにおいてドイツのビュルツブルク大学を選択し、約10週間交換留学生として様々な経験をすることができました。ビュルツブルクはフランクフルトから南東120kmに位置し、長崎市の人口の約3分の1ほどの小さなまちです。リサーチ終了後の春休みもビュルツブルクで過ごしたので、約4ヶ月の滞在になりました。毎日、小さな価値観の変化や新たな発見の連続でしたが、その一部を挙げてみたいと思います。私が最も変わったと感じることは、物事に対する自分のアプローチの仕方です。日本では全てが減点式で、例えば、2/3以上授業に出席しなければ単位を得られない、〇〇日まで実習を行わなければ単位を得られない、というシステムになっています。しかしこちらでは「いつでも、It's up to you」と言われます。何時に帰ってもいいよ、好きなようにしなさい。でももし君が望むなら、今から〇〇に行くけど一緒に来る？」という聞かれ方をします。もしくは、朝一番に「今日は君は何がしたいの？」と聞かれます。もちろん、その問いに答えるためにはその日の施設で行われることを全て把握してなければなりません。よって、予め前日に翌日のスケジュールを印刷してもらい、自分で頼み、そのように自分で頼み、そのほとんどがドイツ語で書かれているため誰かに説明を依頼しなければなりません。確かに大変ですが、そのようにして自分にとって何が役立つかを毎日考えているうちに、自分にとって何が必要なのか、何が不十分なのか分かってきました。そしてやがて、私も「もつとこういことがしたい！」と自ら頼むことができるようになりました。恐れずに言えば、日本でも「帰っていいよ」と言われたら私は素直に帰ってしまっていたと思います。しかし私は、まだ帰りたくない。短期間しかドイツにいられないし、家に帰ってもテレビもパイもインターネットも何もないしやるべきことがありません。何かやらせて！何でもやってみよう！とお願いし続けました。幸運にも、どのDr.も私の希望に喜んで応え、色々な場所に連れて行って下さいました。きつと、私がこのようにアプローチの仕方をとれば、日本のDr.も同じようにして下さいと思います。日本でも自分の足で一歩前に踏み出してみようと考えています。



小さな価値観の変化として例をあげるなら、あの緑の窓口に用事がありました。しかし、時間が運かったためまだ窓口が開いているか不確かでした。そこで、たまたま寮のエレベーターと一緒に乗った人に尋ねようと試みました。しかし、とっさに「緑の窓口」が英語で思いつかばず、私はしどろもどろになってしまいました。とてもばつが悪く、恥ずかしかったので「Anyway, thank you」と言ってすぐに立ち去ろうとしました。すると、その人はきょとんとした顔で言いました、「ごめん、私がすべきことではないです。本当にありがとうございます。」



また、ビュルツブルク大学で教授をされている日本人Dr.とも知り合うことができました。その教授から色々な話を聞くことができました。私も視野に入れるようになり、大学院へ進むつもりです。私は、以前薬学部を卒業し、現在もパート薬剤師として薬局で働いているのですが、現場で日頃抱えているドクターへの違和感という点では割愛致しますが、その違和感という点、ものを解き、患者さんにより良い医療を提供できる医者になるためにも、大学院に進学することは逆に近道になるのではないかと考えたからです。最後に、このような機会を与えて下さった精神科小澤教授をはじめ、全体的に感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございます。



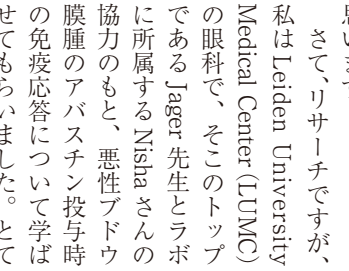
また、リサーチですが、私はLeiden University Medical Center (LUMC)の眼科で、そのトップである「Geert」先生とラボに所属する「Nils」さんの協力のもと、悪性ブドウ膜腫のアバスチン投与時の免疫応答について学ばせてもらいました。とても驚いたのはオランダの人たちのワーキングスタイルです。オランダの人たちは皆とてもフレンドリーでオープンで、まだ日の浅い時に私を気遣ってか、昼食の時に日本語が話せる別のラボの人を連れてきて喜ばせてくれたり、とても親切にしてくれました。普段話している言葉はオランダ語なのに、私にも英語で話しかけてくれたことがとても嬉しかったです。今回、「Geert」先生の元で、眼科の診察も見学させてもらい、移民が多い国ということもあって、ア系、アフリカ系など、

海外リサーチ 4年 寺川 瞳子

2011年の12月から2012年の2月中旬までの10週間、海外リサーチセミナーの一環として、オランダのライデンへ行ってきました。人生初めての海外生活は、経験すること全てが新鮮であり、また、いろんな面で挑戦の日々でもありました。



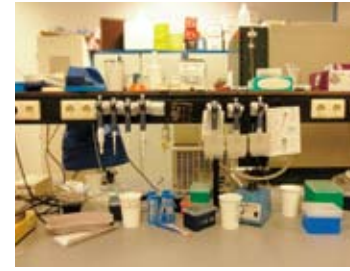
ライデンはアムステルダムから車で約40分のところにあるオランダの小京都のようなところで、フアッションなどの近代的なお店が立ち並び、通りを歩いているかと思えば、ふと何百年前に建てられた風車や教会、要塞の跡が出てきたり、それまでの歴史が今でも息づいているような町です。それとともに、様々な博物館や研究施設などが集まる学術都市でもあります。ライデンは日本からシールボルトが戻ってきた場所でもあり、シールボルトハウスやライデン大学の植物園では、シールボルトが持ち帰った日本のコレクシオンを見ることができました。オランダと長崎の歴史の一端を日本の側からだけではなく、オランダの側から直に見ることができたという経験は貴重なものだったと思います。



さて、リサーチですが、私はLeiden University Medical Center (LUMC)の眼科で、そのトップである「Geert」先生とラボに所属する「Nils」さんの協力のもと、悪性ブドウ膜腫のアバスチン投与時の免疫応答について学ばせてもらいました。とても驚いたのはオランダの人たちのワーキングスタイルです。オランダの人たちは皆とてもフレンドリーでオープンで、まだ日の浅い時に私を気遣ってか、昼食の時に日本語が話せる別のラボの人を連れてきて喜ばせてくれたり、とても親切にしてくれました。普段話している言葉はオランダ語なのに、私にも英語で話しかけてくれたことがとても嬉しかったです。今回、「Geert」先生の元で、眼科の診察も見学させてもらい、移民が多い国ということもあって、ア系、アフリカ系など、



オランダの人たちは皆とてもフレンドリーでオープンで、まだ日の浅い時に私を気遣ってか、昼食の時に日本語が話せる別のラボの人を連れてきて喜ばせてくれたり、とても親切にしてくれました。普段話している言葉はオランダ語なのに、私にも英語で話しかけてくれたことがとても嬉しかったです。今回、「Geert」先生の元で、眼科の診察も見学させてもらい、移民が多い国ということもあって、ア系、アフリカ系など、



様々な文化や習慣をもった患者さんが診察に訪れる様子には決して日本では見られないことなるとも思っています。印象に残ったのが、治療上弊害の多い漢方薬を信じてずっと使っている患者さんで、日本ではそこまで感じることはない人種ごとの伝統や習慣は意外にも根深いものなのだと感じました。今回のオランダでのリサーチを通して、様々な人と出会い、日本とは全く異なる習慣や考え方に刺激を受けました。オランダの人たちは目的意識をしっかりと持って学んでいるという印象を受けました。オランダでは日本にいるときよりも、明確に自分の考えを相手に伝えることを求められる場面が多く、その力が鍛えられたと思います。それと同時に、今までは何もしないでも待っているだけで多くのチャンスを与えられ、それがありがたいくらいなことに改めて気づくことができました。オランダの第一言語はオランダ語ですが、そのほとんどがネイティブで並みに英語を話すことができます。高い英語力は国際社会へ踏み出すことへの躊躇をなくし、世界の人々との交流を通してより一層自分を成長させることができる機会をもたらすと強く感じました。また逆に、拙い英語力でも、少しの勇気と大胆ささえあれば、どうにかなんとかなることも実感しました。英語が得意なのを理由に様々なことをあきらめてしまうのはもったいないことだとも思いました。学生の期間にこのようなことを感じることで、オランダで生活する中で、日本の良さにも改めて気づくことができました。

めて気づくことができました。オランダにいる時によく、日本人は主張しないから何を言っているかわからない、と言われましたが、逆に、言わずとも読み取ることでコミュニケーションが成り立ってしまうのは日本人のすごいところだと思います。



小路先生、Betters先生をはじめとする留学の実現をサポートしてくださった方々、「Geert」先生、Nils先生をはじめとするオランダの方々、そして常に支えてくれた日本の家族や友人の皆様、本当にありがとうございます。この経験を生かして、これからも成長していきたいと思えます。

海外リサーチ 4年 土屋 りみ

今年の1月から5週間、ベラルーシ共和国に行きました。到着した1月初旬は3℃。なんだ！これなら大丈夫！と思っていたのもつかぬ間、気温はみるみるうちに低下し、帰国直前にはなんとマイナス30℃に！外に出るとまっげが凍り、顔も手足も痺れました。雪国で生活したことのない私にとっては、毎日がサバイバルでした。なぜ私がこんな極寒の地にたった1人で行こうと思ったのか。それには主に2つの大きな理由がありました。

私はAO入試国際枠で入学しました。中学生の時に、イラク戦争で使用されたとされる劣化ウラン弾の存在を知り、被害にあった子供達のことを調べ、核兵器の恐ろしさを実感しました。放射能という見えないものに苦



しめられる苦しさを知り、助けたいと思いました。そのため、チェルノブイリ原発事故により甚大な被害を受け、長崎大学が長年共同研究を進めていたベラルーシに行きたいと思うことは自然なことでした。もう一つは、昨年3月11日に発生した東日本大震災と、それによる福島第一原発事故です。長崎大学も、山下教授はじめ多くの先生方が様々な方向から支援を行っていらっしゃいます。当時、マスコミも多くの情報を流し、政府もイマイチはつきりしない対応をし、どの情報も正しいのかわからないことが多く混乱を招いていました。私も情報の取捨選択もできず、とても悔しい思いをしました。そこで、実際に自分の手で放射能を測定して、今の福島は安全なのか、今後ど



うなるのかを知りたいと思いました。空港までベラルーシ医科大学の学生が迎えに来てくれ、学生寮での生活が始まりました。海外で生活してみてもいいよ。という受け答えをよく聞いていた私。しかし、ベラルーシでは翌日の予定を決める時も、お昼ごはんの時間、場所を決めるのもすべて意見を聞かれ「どちらでもいいよ！」という「It depends on you」と返されました。自分の言いたいことをしなくても英語で言うことは私にとって試練でしたが、いい経験になりました。私は「チェルノブイリ周辺地域における放射線量測定と健康リスク評価」というテーマで研究を行いました。高村教授と共に、現在も立入禁止区域とされている30km圏内に入ることで、空間線量の測定と土壌の採取を行いました。また、ベラルーシの主食じゃがいも、福島で基準値の議論をされている乾燥キノコを持ち帰り、放射線量を測定しました。約12km地点には、除染された区域に調査施設があり、すぐ近くには除染されていない地帯が広がっていました。その両地点で比較すると、空間線量も、土壌における放射線量でも、Cs濃度や、放射性物質の種類など大きな違いがあり、



除染の効果を確認することができました。...

また、放射線測定センサーも見学しました。この施設は、市民が測定したいと思った食物などを...

また、ベラルーシは島国日本とは正反対と言っている。...

また、ベラルーシは島国日本とは正反対と言っている。...

また、ベラルーシは島国日本とは正反対と言っている。...

また、ベラルーシは島国日本とは正反対と言っている。...

最後に、この期間中私のお世話をしてくれたベラルーシの学生はじめ、多くの方に感謝を伝えたいと思います。

このリサーチセミナーで、自分の将来のビジョンが少し見えました。...

このリサーチセミナーで、自分の将来のビジョンが少し見えました。...

このリサーチセミナーで、自分の将来のビジョンが少し見えました。...

このリサーチセミナーで、自分の将来のビジョンが少し見えました。...

このリサーチセミナーで、自分の将来のビジョンが少し見えました。...

このリサーチセミナーで、自分の将来のビジョンが少し見えました。...

体験記

ケニア

4年 荒木彩恵子

◆フィールドワーク in ビタ◆

自主研修として訪れたケニア西部、ビクトリア湖畔のニヤンザ州スバ県...



ビタ、行ってみたいところだ！...

ケニア人の視力聴力に驚く。...



市中の医療施設に向くと、偶然にもどこも絶賛ストライキ中。...

市中の医療施設に向くと、偶然にもどこも絶賛ストライキ中。...

虫は嫌でも構ってられない。粉雪のように視界...

虫は嫌でも構ってられない。粉雪のように視界...

虫は嫌でも構ってられない。粉雪のように視界...

虫は嫌でも構ってられない。粉雪のように視界...

虫は嫌でも構ってられない。粉雪のように視界...

虫は嫌でも構ってられない。粉雪のように視界...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

の50年、資源豊富なケニアは今まさに先進国化...

サークル紹介

カステラmates

はじめまして、カステラmatesです。この文章を読んでいる方で、カステラmatesという存在を知っている方は...

カステラmatesでは実際に活動されている方を呼びびし、講演をしていただきました。...

カステラmatesでは実際に活動されている方を呼びびし、講演をしていただきました。...

カステラmatesでは実際に活動されている方を呼びびし、講演をしていただきました。...

カステラmatesでは実際に活動されている方を呼びびし、講演をしていただきました。...



サークル紹介



ボート部



ボートって何？

ボートと聞いて皆さんはどういったものを想像されるでしょうか。ペロン？カッター？ボートと呼べるものは色々ありますが、僕たちが漕いでいるボートは右のような細長いボートです。

ボート競技はスピードを競うものであり、決められた距離を他の艇よりも早く漕ぎきることが勝利につながります。医学部の大会では主にフォアと呼ばれる4人の漕手と1人の舵手が力を合わせて、1km先のゴールに到達するタイムを競います。「水上のF1」という異名をもつこの競技、人力の水上スポーツの中では最も速いとも言われています。

ボートの歴史

ボートというスポーツがどのようにしてできたかなどといった歴史を振り返ってみたいと思います。世界的にみるとボート競技が盛

んなのは発祥の地である欧米諸国です。高校生や大学生などの学生や実業団の人々が主流の日本とは違い学生や社会人だけでなく、ごく一般の人々のレベルでも盛んに行われています。

欧米諸国は各地にボートクラブがあり、日本よりも遙かに一般の人々にとって身近な存在であり環境や条件にも恵まれています。特に日本よりも北にあるヨーロッパでは、ボートに適した水河時代の名残のフィヨルドや湖沼群が多くあることも盛んな一因です。

(<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~eg81531/group2/index.html>)「ボートの歴史より引用」

実際長崎大学医学部ボート部の艇庫でも、日本製よりドイツ製、イタリア製の艇が主流です。

ボートの魅力

ボートの魅力はやはり漕いだ時の爽快感にあります。暑い夏でも水の上を進む涼しさは他ではなかなか味わうことが出来ません。

この競技は全員が動作を合わせなければ、個々の能力が如何に高くてもスピードは出ません。しかし全員が息を合わせて動作を合わせること、ボートは水上から浮いたようにシユルという快音を放ちながらとつもないスピードが出るのです。この感覚を味わってしまおうと病みつきになってしまうでしょう。つま

り、ボートは究極のシンクロスポートなのです。しかしそう簡単に動作を合わせることは出来ません。同じ艇に乗ることにしたクルーは練習からレースまでの期間、ともに練習を積み、動作と呼びを合わせるため練習に励みます。皆で笑い、喜び、泣き、叫び、それら乗り越え、クルーがひとつとなり、レースで勝利したときの感動は口では言い表せません。一生忘れない思い出となることでしょう。勝ちという結果に行きつくまでには、様々な困難があるかもしれませんが、それを皆で乗り越えたときは、厚い信頼が生まれます。このような経験は大学でしかできません。ともに戦った仲間、一生の友になることでしょう。

さらに医学部生は将来医者になった時かなりの体力を必要とします。今後のためにもボートで体力をつけようという部員も少なくありません。また団体競技に身を投じたチームワークを向上させようという部員もいます。このスポーツは他のスポーツに比べて経験者が少なく、大半が初心者です。長崎大学医学部のボート部では、中高で部活動をしてこなかった人も多く、大学から始めるスポーツとして人気があります。

さらに全員が必ず試合に出場することが出来ることも魅力の一つと言えます。

ボート部員的生活

朝、市街の喧騒から離れた大村湾内にある子々川という周りを森や島で囲まれた大自然の中でボートを漕ぎます。日の出前にはたくさんの星を、日の出の時にはオレンジ色に染まった朝焼けを見ることもでき、季節によっても様々な景色を目にすることが出来ます。

中でも夏の緑の山々と一面青い空のもとで漕ぐボートは最高です！朝練習を終え、学校に向かいます。大学生は朝一の授業に欠席がちですが、ボート部員はそんなことはありません。部活に行き授業をきちんと受けることで、文武両道出来るのです。夕方はバイトや趣味の時間として有効に活用することが出来ます。

最後にボート部では年間を通して楽しいイベントがたくさんあります。ボート競技においても一昨年の西医体では優勝、最近では関東方面の大会に出場したりと、ボート部は今最も熱い部活です！もし興味がある方がいらしたら、ぜひ長崎大学医学部ボート部のHP: http://wikilivedoor.jp/chodai_rowing/をご覧ください。

最後にボート部では年間を通して楽しいイベントがたくさんあります。ボート競技においても一昨年の西医体では優勝、最近では関東方面の大会に出場したりと、ボート部は今最も熱い部活です！もし興味がある方がいらしたら、ぜひ長崎大学医学部ボート部のHP: http://wikilivedoor.jp/chodai_rowing/をご覧ください。

平成23年度（第23回）ポンペ賞受賞者

成績優秀者（学業成績 上位3位）



木村 ななえ七絵



松永 わたる



村瀬 たけひこ 壮彦

進級状況

1年生119名中118名、2年生122名中112名、3年生112名中102名、4年生98名中97名、5年生106名中105名が進級した。

今年度の留年者は23名、休学者は4名、退学者0名であった。



平成23年度 医学部卒業証書授与式



編集後記

今回はメディア部の部活紹介ならびに勧誘を1面にさせていただきました。生協パーティーでの勧誘も考えましたが、学生新聞作りがメインな部活なので勧誘の形式も新聞にしてみました。おかげ様で部員も10人を超えるようになりました。しかし我々最高学年が卒業しても活躍が続けられるように更なる仲間を募集します！学年は問いません！まだ部活に入っていない1年生の方も大歓迎です！和気あいあいとした部活なので、是非宜しくお願いします！

(本田徳鷹)

段々と梅雨も近づき、徐々に気温も上がって来たように思います。とにかく今年も節電の夏となりそうです。帰省中は大丈夫かと思いましたが、むしろ帰省先の方が電力状況が厳しいです。

この先暑い夏だけでなく、いよいよスタートする実習、その他色々、更には我がメディア部のことと、課題は多いですが、1つずつ乗り越えてゆければと思います。

それではまだまだ残り多き1年、どうぞよろしくお祈りいたします。

(山本直毅)

1年生のみなさん、ご入学おめでとうございませう！1年生にとって初めてのぐびろが丘になると思いますが、今後ぜひぐびろが丘にしたいと思っております。1年生はカリキュラムが大変そうですが、学生生活をぜひ、エンジョイしてください。

(川床健司)

ついに5年生になりました。自分が1年生の頃の5年生はとて大人に見えましたが、その像と今の自分にギャップを感じています。

最近PBLやポリクリで、今までの知識を臨床に活かすことができているようです。とにかく、班員の足を引っ張らないように寝坊には気を付けます！

(小嶋翔子)